

埼玉県行田県税事務所長賞

未来を支える税金

学校法人開智学園開智未来中学校

三年 江原 優

税金をテーマにした作文を書くのはこれで3回目である。その度に税金の使われ方や集められ方を調べてきたが、税金を自分ごととしてとらえるのは難しかった。たくさんのお金を納めているのは大人。大人の世界の話。そう思うことしかできないのである。

しかし先日税金を身近に感じる出来事があった。私の家がリフォームされた時のことである。壁紙やドアのデザインなどが新しくなった。その中でも特に気に入ったのは二重窓に替わったことである。二重窓とは元のガラスにもう一枚ガラスを付け加えたものであり、一枚ガラスより断熱や防音効果のある窓のことだ。この窓になってからエアコンの効きが良くなり、快適に家で過ごせるようになった。

両親が二重窓にするとした決め手は国からの補助金だという。補助金という言葉は聞いたことがあった。貧しい人たちの生活や進学することを希望する学生たちへの金銭的サポートのことである。去年、作文を書く際に財務省のホームページで読んだのを覚えていた。

しかし、なぜ二重窓に補助金が出るのだろう。誰かを助けているようにには思えない。調べてみると、地球の将来に深く関係していることがわかった。年々日本の夏の気温は上がり続けている。その影響で全

国的にクーラーの使用量も上がっている。これは消費エネルギーがあり、環境にかかる負荷があがる原因になっている。またエアコンの使いすぎはヒートアイランド現象を起こし、地球温暖化を促進させてもいる。エアコンの使用で、地球が壊れそうになっているのである。このままではいけないと国は断熱効果の高い二重窓の推進を始めた。しかし、ただ呼びかけても国民はなかなか動いてくれない。だから補助金を出すことにした、ということのようだ。

窓を替えることで地球を守ることができる。将来の人たちの生活を助けることができる。補助金は、そういった未来に役立つことにも使われているようだ。これを知ったとき私はとても安心した。日本には少子高齢化や円安など様々な問題がある。その中で私は、自分が大人になったときの地球環境がどうなっているかを特に心配していた。しかし、税金を通して少し未来の自分の生活や環境に安心感を抱いた。税金は私の心配ごとを軽くしてくれる力があるようだ。

今まで税金の使われ方に興味はなかった。しかし今日、税金が一步私に近づいた気がする。これから生活していく上で税金に助けられていくことがあると思う。その度に税金は私にとって近い存在になっていく。納税者になったとき、税金が身近で、自分を安心させてくれるものとして見られるようになっていれと思う。